

個別課題: 地域医療機関との連携カンファレンス
(令和元年7月1日～12月末日)

施設名:	Plan (計画)	Do (実行)	Check (評価)	Act (改善)
5 市立東大阪医療センター	地域医療機関との連携カンファレンスを7月、9月、10月、11月(4回)に行う	<p>当院から在宅医療に移行した症例、あるいは在宅から当院に入院された症例のカンファレンスを行い、よかった点、課題などを検討する。</p> <p>① 「東大阪医療センター緩和ケア連携カンファレンス」とする</p> <p>② 地域連携室を通じて、地域の病院、診療所、クリニック、訪問看護ステーション等に、開催のアナウンスを行う</p> <p>③ 症例は緩和ケアチーム介入患者、緩和ケア病棟入院患者、外来通院患者を対象とする</p>	<p>1. 開催日、テーマ、参加者 第1回7月18日、参加者33名、テーマ:「緩和ケア病棟のレスパイトを考える」 第2回9月19日、50名、テーマ:「患者さんの解決できない苦しみに直面し、苦悩した症例」～頻回のコールに訪問し応えたけれど～。 第3回10月31日、24名、テーマ:「透析終了を希望された腎がんターミナルの患者さん」、～在宅での対応・緩和ケア病棟での対応～ 第4回11月21日、25名、テーマ:「お家に帰ってよかった」、～病院ではできないケアが在宅にはあると感じた症例～</p> <p>2. アンケート結果 事例検討に参加されて77%の方は「よかった」、「とてもよかった」と回答した。研修時間については、77%と方は「適切であった」、15%は「少し長かった」、「とても長かった」と回答された。事例を通して多職種の見聞が聞けてよかった、多職種との連携が必要であることを実感した、退院後の患者さんや家族の様子が聞けてよかった、病棟と地域がもっと連携をすることで患者さんの理解が早くなると感じた等々の意見があった。</p> <p>カンファレンスを開催することで、在宅医療の現実をすることができた。しかし、各回、院外からの参加者が多く、院内スタッフの参加が少なかったのが今後の課題である。地域連携を考える上で、緩和ケア以外の診療科医師、一般病棟スタッフの参加が望まれる。</p>	<p>がん患者さんたちが在宅で療養できることを自信をもって患者・家族に勧めるために、地域連携カンファレンスが重要であることを、院内に広める。地域連携カンファレンスの報告を院内で行うようにする。</p>